

会 議 の 経 過

議 長（川村重光君）

ご起立願います。

おはようございます。

お座りください。

本日の欠席議員はおりません。

ただいまの出席議員数は12名であります。

定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

開議（午前10時00分）

議 長（川村重光君）

本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。

日程第1 諸報告を行います。

地方自治法第121条第1項に基づき出席要求した者及び委任による出席者の氏名については、お手元に配付してあります出席者名簿のとおりであります。

次に、日程第2 一般質問に入ります。

一般質問の通告者は1名であります。通告の順により一般質問を許します。

1番、盛田嘉彦君は一問一答方式による一般質問です。

盛田嘉彦君の発言を許します。

1番、盛田嘉彦君。

1 番（盛田嘉彦君）

改めまして、皆さんおはようございます。

議長のお許しをいただき、所感を述べながら質問に入らせていただきます。

役場前のイルミネーション、すごくきれいですね。町民からの評判も大変よくて、町内外からいろんな方が記念撮影に訪れております。実行委員の皆さんは、かなりご苦勞があったかと思えます。また、それに携わったお子さんにはかなりいい思い出にはなったんじゃないでしょうか。すごくいい事業だったというふうに感じます。

今回の私の質問なんですけれども、健康面を中心に質問させていただきます。

ここからは、全く私ごとで恐縮なんですけれども、昨年の10月、私は大腸がんの診断を受けまして、ステージでいうところのステージ2で、直腸がんということだったので、人工肛門をつけることを余儀なくされました。そして、その後の検査において、リンパに転移しているということが判明しまして、ステージでいうところのステージ3で、再発予防のための抗がん剤治療を7か月間にわたって行いました。その間、皆さんには多大なるご心配、ご迷惑をおかけしたことを心からおわび申し上げたいというふうに思います。

そして、その状況でありながら議員活動を続けさせていただいたこと、また続けさせていただくに当たって皆さんからいろんなご配慮、フォローしていただいたことに関しまして、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

自分が1年間にわたるがんということに向き合ったことによって、いろんな経験をいたしました。今回の質問は、その経験に基づいていろいろ質問させていただければというふうに思います。

それでは、通告に従いまして質問に入らせていただきます。

まず、最初の質問ですが、オストメイト用のトイレを道の駅に設置する考えはないかということなんですけれども、オストメイトとは人工肛門、または人口膀胱を保有している方のことをオストメイトといいます。オストメイト用トイレといっても、皆さんは多分ぴんと来ないと思うので、簡単に説明しますと、手洗い場があるんですけれども、その手洗い場の流す排水口の部分に排せつ物を流すため、水洗トイレのようにぱっと流せるようなものがついたもの、そして入り口の蛇口のところにシャワーがついたもの、これがオストメイト用トイレです。ただ、オストメイト用のトイレといいますが、オストメイトの方々だけが使うトイレではありません。排せつ物を処理できるものなので、例えば小さいお子様をお持ちの人であるとか、あとはご老人の方とか、いろんな方が使えるようなものがオストメイト用トイレでございます。

これを道の駅に設置する考えがあるかお尋ねいたします。

続きまして、健診についての質問なんですけれども、このコロナ禍の状況にあって、健診控えをするといういろんな状況があったというふうに思います。その状況と、私自身、健康診断というものに関して、重要性というのを再認識いたしました。特定健診、これは別名メタボ健診と言うんですけれども、生活習慣病に対する早期発見、そしてがん検診です。

がん検診、今、がんは男性で3人に2人、女性で1人ががんになるというふうに言われています。ただ、がんは早期発見できれば怖い病気ではありません。ただ、早期発見するため

にはがん検診しかないんです。そのがん検診の受診率を上げることがかなり重要だと思うので、その受診率の向上についてどのように取組をなされているのかお尋ねいたします。

そして、最後の質問なんですけれども、そのがん検診で再検診が必要とされた方、40歳から60歳の方に再検診の際に必要な補助金を差し上げているんですけれども、その対象を皆さんに、再検診が必要とされた方、対象者全員に補助金を出せないかということです。

ちょっと訂正があるんですけれども、40歳から60歳と言ったんですけれども、子宮がん検診は二十歳から行っているので、60歳以下に訂正させていただきます。

この政策を知ったある方から、私、言われたんですけれども、若い人にばかり補助金を出して、年寄りに出さないって、年寄りは死んでもいいと思っているのかというふうに言われたんですね。確かに、その分だけを切り取れば、そういうふうに言われてもしようがないのかなというふうに思うんですけれども、がん検診の一番の目的はがんを早期発見することです。その目的の中では、全ての方を対象にして、がんの検診率を上げていくということが大切だというふうに思います。

最後の質問は、がんの検診率を向上させるために補助金を出せないかということになります。

以上、壇上からの質問を終わります。ありがとうございました。

議 長（川村重光君）

町長。

町 長（吉田 豊君）

皆様、改めましておはようございます。

早速ではございますが、1番、盛田議員のご質問にお答えを申し上げてまいりたいというふうに思います。

まず、オストメイト用トイレ設置についてのご質問でございます。

オストメイト用のトイレ、ただいまご質問の中でお話しされたとおりのものでございます。病気、がんや事故などによりまして、消化管や尿管を損なわれた者、手術前と同じように社会生活を送るために、腹部に排せつのためのストーマと呼ばれる人工肛門や人口膀胱を増設されたオストメイトの方用のトイレにつきまして、ご指摘があったように町の観光拠点であります道の駅には24時間、365日ご利用いただける屋外トイレと、メイプルふれあいセンタ

一内に障害をお持ちの方や小さなお子様をお連れの方々も利用できる多目的トイレは、各1か所ずつございますが、オストメイトの方用の設備は設置しておりません。

オストメイトの方用の設備のあるトイレにつきましては、現在のところ、町内においては昨年度において大規模改修工事が完了いたしました町総合体育館内の多目的トイレの1か所のみでございます。

平成30年度データではありますが、オストメイトの方は全国で21万5,251名、青森県内でも2,662名の方がいらっしゃいまして、年々増えているようでございます。

このような状況の中、町としては町民の、そして町にお越しいただく方々の利便性と福祉をより向上させるため、道の駅の屋外トイレへのオストメイトの方用の設備を整備したいと考えております。

また、他の公共施設につきましても、今後において大規模改修等の際には、その計画の中に同様の考えを持ちながら、オストメイトの方用のトイレも設置するよう取り組んでまいりたいというふうに思っております。ご理解のほどをよろしくお願い申し上げます。

2つ目のご質問でございます。健康増進事業についてのご質問でございます。

コロナ禍での健診の状況と健診率向上に向けての取組について問うということでございます。

まず、健診方法は、健診車等による集団健診と、医療機関等で受ける個別健診、人間ドックで実施しております。コロナ対策として、集団健診受診時の混雑を避けるため、申込制とし、1日当たりの受診者数や受付時間を指定いたしました。また、会場についても就業改善センターでは密集することから、文化ホールを利用しております。

令和2年度の健診の状況としては、受診者数と受診率は国保特定健診が780名で38.3%、後期高齢者健診が346名で19.9%となっており、主ながん検診受診者数と受診率は、大腸がん1,117名で15.5%、肺がん1,074名で14.9%、胃がん792名で11%となっております。

令和元年度と比較しますと、国保特定健診が91名の減、後期高齢者健診が24名の減、大腸がん73名の減、肺がん124名の減、胃がん10名の増となり、新型コロナウイルスの影響により受診控えの傾向があり、令和2年度はほとんどの項目で減少しております。

健診率向上に向けての取組としては、令和3年度において対象者への個別通知、未受診者へのはがきと電話での受診勧奨、通年で個別健診ができるよう、委託先の拡充や集団健診をこれまでより早い8月に受診機会を設けております。

また、40歳から55歳までの国保人間ドック個人負担軽減事業や、元気アップポイント事

業などの継続事業との組合せにより、受診率の向上に今後も努めてまいりたいというふうに思っております。

3つ目のご質問でございますが、がん精密検査助成事業についてのご質問にお答え申し上げます。

現在、再検診を受診する際の助成事業を40歳から60歳の町民に行っております。対象を全ての再検診者とする考えがあるかということについてでございますが、がん検診精密検査受診助成事業は平成27年度から実施しており、がんによる死亡者数の減少を図るため、町が実施するがん検診を受診した結果、精密検査が必要となった60歳以下の方に対し、検査費用と交通費について5,000円を上限とし助成しているものでございます。

事業利用者は、令和元年度46名で58.2%、令和2年度47名、60.3%の利用がありました。

また、精密検査の受信状況については、60歳以下では令和元年度79名中59名で74.7%、令和2年度78名中56名で71.8%でございました。

61歳以上では、令和元年度147名中113名で76.9%、令和2年度184名中123名で66.9%となっており、コロナウイルスの影響により精密検査についても受診控えの傾向があると思われれます。

助成事業の対象を全ての再検診者とする考えがあるかということでございますが、現在の助成事業の趣旨は、がんに罹患した場合に進行が早く、より生活に影響を与えられられる60歳以下の方を対象として、早期に精密検査をしていただく助成事業としているもので、現時点では対象年齢を拡大する、特に高齢者等においては現在では考えてはおりません。

しかし、早期発見、早期治療は重要と捉えておまして、精密検査の未受診者にはこれまでどおり受診勧奨の通知や広報紙による周知、電話や自宅訪問を通じて精密検査を受診するよう促してまいりたいというふうに思っております。

以上で答弁とさせていただきます。

議 長（川村重光君）

盛田嘉彦君の再質問を許します。

1 番（盛田嘉彦君）

私、女子高生、高校生の女の方でオストメイトの方とお話する機会があったんですけども、その高校生の方が中学校のときからオストメイトになったという話を聞いて、人工

肛門ということで、臭いとか汚いとかということで誹謗中傷を受けて不登校になったと、かなり苦しい思いをしたというふうな話を聞いたときに、人口肛門という言葉は皆さん知っているというふうには思うんですけども、その中身については全く知られていないというのが今の現状だというふうに思います。

そこで、まず人工肛門について説明した上で、再質問に入らせていただきたいというふうに思うんですけども、議長、お許しいただけますでしょうか。

議長（川村重光君）

はい。

1 番（盛田嘉彦君）

ありがとうございます。

それでは、人工肛門についてちょっと説明させていただきます。

人工肛門というものは、腸に何らかの疾患があって、排せつすることができなくなった方がつけるものなんですけれども……議長、立って説明してもいいですか。

議長（川村重光君）

大丈夫。はい、どうぞ。

1 番（盛田嘉彦君）

ありがとうございます。

じゃ、すみません、ちょっと立たせていただきます。

人工肛門というのは、小腸から取る場合と結腸から取る場合があります。小腸の場合は右で、結腸から取る場合が左で、ほとんどの方が結腸から取るので、ここの部分にあるんですね。皆さんにまず知っていただきたいのが、人工肛門というのは、今は町長もおっしゃったんですけどもストーマと言います。ですから、人工肛門というのは言葉のイメージがやっぱりよくないので、皆さんにはもうストーマというふうに覚えていただきたいんですけども、そのストーマがここにあるんですけども、じゃどういうふうなものかということ、大体3センチ大の梅干しを想像していただいて、それがここについていると。その3センチぐらいのところから、便であるとかガスであるとかというのを排せつする。

当然、ここから便が出てくるので、自分では出そうと思って出るものではなくて、自然に出てくるものなので、じゃそれを受けるものが必要で、それが今、私も使っているものなんですけれども、これがパウチと呼ばれるものです。このパウチと呼ばれるものが、後ろに穴があるんですけれども、これを自分のストーマの大きさに合わせて、各自全員大きさが違うので、その大きさに合わせて、私だったら34ミリに合わせてこれを丸く切って、このパウチをここに装着するというのが現状なんです。

これがシール状になっていて、この部分だけなんです、この部分だけでシール状になっておりまして、これを剥がして、そしてこれはこうあるんですけれども、この部分だけがシール状になっていて、これをここにこう貼り付ける。位置はここです。ここで、ここから便が出る。これはちょっと透明になっているんですけれども、透明になっているという意味は、中の便が見えて、硬さとかという健康状況をチェックするために、あえて私は透明なものにしています。

このパウチなんですけれども、2,000種類あります。要するに、いかに人工肛門の方が多いかということが、この数字だけでも分かると思うんですけれども、値段的には1つ1,200円ですね。このパウチ、よくできていまして、ガスもたまるといふうに言ったんですけれども、見えないと思うんですけれども、ここの部分にフィルターがあつて、ここからガスが抜けるようになっているんです。さらに、これには消臭効果があつて、臭いが出ないように、それこそガスが出るようにというふうになっているんですね。

すごくよくはできているんですけれども、ただ問題なのが、シール状でくっつけると言ったんですけれども、これいつ出てくるか分からないので外せません。要は24時間、365日、これをつけっ放しです。唯一、交換する際にだけ、このパウチを外すということなので、どうしても皮膚炎になります。夏場になれば、今度は汗をかくので、この部分にあせもとかというのが出てきます。

一番の問題なのが、やっぱり漏れという部分です。ただ、このようにシールでくっつけているだけなので、どうしてもしわになった部分から、シャワーとかつてすると水とかが入ってきて剥がれてきます。これが剥がれてくるのが、要は漏れであるとか臭いの原因になる。そのときには、もうすぐに交換しなければならない。ただ、こういう場でこれが外れたからといってできるわけではないので、いつ外れてもいいように、私の場合はもう車にはこのパウチの控えであるとか着替えであるとか、漏れてもいいようにということで用意しているのが今の現状です。

皆さんも、大衆浴場に行った際に、この袋をつけて入っている方って見たことありますか。多分、ほとんどの方が見たことないと思います。なぜなら、やっぱりここに便がたまっている人がつかった浴槽には一緒に入りたくないじゃないですか。それは、オストメイトの方が分かるので、私自体もオストメイトになってもう1年たつんですけども、一度も大衆浴場には行ったことがありません。本当は大好きなんですけれどもね、やっぱり温泉とかにも行きたいんですけども、やっぱりいけない、それが現状です。

さらに、これに物が入ってくると、やっぱりどんどん膨れます。これがそのまま膨れてくるので、かなり出っ張ってくるんですね。私みたいにもう中年になってしまえば、腹が出たおじさんだなというふうに思われるだけなので、全然構わないんですけども、やっぱり若い方とか女性の方であれば、体の線が出てくる服とかはもう一切着られないので、やっぱりその心の部分の負担というのはかなりなものかなというふうに思います。

ここから再質問のほうには入っていくんですけども、この位置です、ついているのが。これを、じゃどういうふうにトイレで流すのかというと、洋式であればある程度、まだ高さがあるんですけども、それでもかなりかがんだ状態で切らなければ、捨てなければならないので、お年寄りの方にはかなりきついのかなというふうには思います。

マスク外したほうがいいですね、声が通らないですね。

和式です、問題なのは。和式の場合は、もう想像がつかますよね。ここにあるので、両膝を地面について、さらにかがんだ状態で捨てなければならない。もう衛生的にもかなり不衛生なんですけれども、ただそれがオストメイト用トイレであれば、このままの状態です捨てられるんですね。取っ手口にシャワーがついているというふうに説明したんですけども、それはこのパウチを洗うためです。取って、このパウチを洗って、これも交換もできるんです、シャワーがあることによって。交換の際に、やっぱりこのストーマの部分が露呈するので、それをきれいに洗浄した状態で、シャワーを使ってという形で、ですからオストメイト用トイレというのはオストメイトの方にとってはもうかなりありがたいものなんです。

ちょっと座らせていただきます。

なぜ道の駅かということになるんですけども、本来であれば公共の設備、役場であるとか文化ホールとかというふうに、多くの方が集まるところに設置してほしいんですけども、ただいかんせん役場の場合はもう建物が古い。そういうものに全然対応していないので、一から工事をやるとなったら膨大な経費がかかります。これは現実的ではない。でも、道の駅には今現在、オストメイト用トイレとうたえるようなものはあるんですね。というのが、よ

くオストメイトの方が使えますよというトイレに看板があって、それに入ってみるんですけども、ほとんどのトイレが排水口がないんですね。ただの手洗いなんです。それであれば、オストメイトの方にはもう全くないのと同じなので、排水口があるというもののトイレをつけなければならない。道の駅には水回り関係はもうそろっているんで、最低限のコストでできるのかなというふうに思います。

そして、道の駅の魅力的なところが、国道に隣接してトイレがある。やっぱり駐車場に入って、すぐトイレに行ける。もう十和田とかでいうと、公共の施設にはあることはあるんです、市役所であるとか中央病院であるとかというところにはあるんですけども、やっぱり駐車場に止めてから、まず施設に入るまでに長い距離がある。入ってから、さらにまたトイレまでが長い距離がある。これ、使わないですよ、官舎に用事がある人以外は。でも、道の駅であれば、駐車場に止めてすぐ道の駅に入って利用できる。そして、道の駅前の国道45号線は、県内でもトップクラスの交通量を誇ります。観光バス等も多く通ります。そういう方には広く利用していただけるのが道の駅のトイレだというふうに思います。

また、町長がおっしゃったとおり、施設であれば閉館しますので、ほとんど夜は使えません。でも、道の駅の場合は24時間使える。これはかなりオストメイトの方にとっては助かるものであります。そして、道の駅というのは町の顔でもある。そこにオストメイト用トイレがあることによって、障害者に優しい町だということでPRができるというふうに思います。

それを有効的に使うために、道の駅にトイレをつけてほしいということだったんですけども、どうでしょうか、町長。今の説明で大丈夫ですか。

町 長（吉田 豊君）

よろしいです。

1 番（盛田嘉彦君）

前向きな検討を最初でいただいたので、ぜひ道の駅につけていただきまして、オストメイトの方のことももっと広めていって、その輪が広がっていけばなというふうに思いますので、今後もこういう活動は続けていきたいなというふうに思います。

続きまして、健診についてのご質問なんですけれども、今、コロナ禍の中において、郵送で問診票等を送っていると思うんですけども、健診の難しいところが、毎年健診を受ける方は毎年受けるんです。ただ、受けない方は受けない。じゃ、その受けない方をいかに受け

る気持ちにするのかということが課題だというふうに思うんですけども、送付された問診票に、送付されたものには私も目を通しました。その中には、別紙で健診の重要性であるとか、メリット、デメリットというのが事細かく書いてありました。すごく分かりやすかったですし、いい文書だというふうには思うんですけども、何分あれですよ、言い方は悪いんですけども、紙切れで人の気持ちというのは動かないですよ。

じゃ、その動かない方をどういうふうに受けるという気持ちにさせていくのかというのは、やっぱり人の気持ちを動かすのは、私は人でしかないというふうに思っているんで、ただ、じゃそういう方に福祉課の方々が個別で電話して受けるように促すというのは、もう現実的には不可能なんだと思います。

私は、健康づくり推進協議会の会長なんですけれども、その会議の場でも言わせていただいたんですけども、福祉に関してはやってやりたいこと、やりたいこと、もう山ほどある。ただ、町とすれば財源も人も限界がある。じゃ、その足りない分を皆さんで補っていけないか、支え合っていけないかということをお願いしたんですけども、ちょっと私からの提案は、各町内会には保健協力員、民生委員、見守りサポーターの方々がいらっしゃいます。その方に、まずはわざわざ開くことはないんですけども集まった際に、健診の重要性というところの講義をしていただいて、その方々が町内会に帰って行って、その方々にいろいろサポート、アドバイスしながら、受けない方にも直接お願いしながらという形でできないのかなと。

できれば、区長さんにもお願いして行って、必ず常会というのは開かれますので、その際にも健診に行きましょうということで、健診というのは各町内会において行っておりますので、健診が始まる前には皆さんでお声をかけていただいて、みんなでまとまっていけるようなのができないかなというふうに思うんですけども。これは経費もかかるものではないので、福祉課長、どうですかね、こういう体制というのは整えていただくことというのはできないんですかね。

議長 長（川村重光君）

福祉課長。

福祉課長（舘 泰之君）

地域でのPRというところだと思うんですが、町内会の集まりというところに関してでき

ればというお話だと思うんですが、ちょっと何分、年末年始あたりの集中した同じような日に実施されているのが実情かなと思っているので、そのタイミングでの実施はちょっとなかなか難しいのかなとは考えております。

ただ、先ほどもありましたけれども、保健協力員ですとかというところがあるかと思えます。保健協力員さんのほうの協力を得まして、町内会で健康教室とかああいうところを増やしていくと、その場所でのPRをしていくというのが一番いいのかなというふうには考えております。

以上です。

議 長（川村重光君）

盛田嘉彦君。

1 番（盛田嘉彦君）

そうですね、今は消防のほうでは人工呼吸器とか使えるように、人形を用いてやれるようなものとかというのがありますので、各町内会の方々にもそちらのほうを申し込んでいただいて、いろいろ勉強していただければ、健康に対する理解が深まるのかなというふうに思うんですけれども。

問題が、再検診の受診率の向上なんですけれども、今度は再検診となりますと個人情報になるので、一般の方は立ち入れない。保健師さん方で対応していかなければならないというふうに思うんですけれども、再検診が必要とされた方は、別日に就業センター等に呼んでいただいて、保健師さんの指導を受けるということでやっているんですけれども、私も何回も保健師さんの指導を受けたんですけれども、いかんせんやっぱり保健師さんは優しいですね。

再検診の信頼性というのは、私はすごく高いというふうに思っています。私自身、大腸で3回引っかかりまして、3回ともポリープがありました。うち2回ががんだったんですけれども、皆さんも再検診、私のほうは大腸しかちょっと分からないんですけれども、大腸に関してはかなり信頼性が高い。その信頼性が高いものを放置するリスクというものは、すごく高いなというふうに思います。

この再検診の受診率を上げることが一番重要ではないのかなというふうに思いますので、ぜひ保健師さん等には自分の家族だと思って説得していただきたい。ただ、一度電話とかでやっているというふうに言ったんですけれども、受けない方は確かに受けないんですね。そ

ういう方に関しては、その方の家族も巻き込んでいただきたい。というのが、やっぱりがんになって一番迷惑がかかるのが家族です。家族の生活も一変させます。そういうことで、やっぱり説明を家族の方にもしっかりしていただいて、放置していくことのリスクの高さということをしっかり説明していただいた上で、再検診の受診率を上げていただきたいなというふうに思います。

最後の質問のほうに入っていくんですけども、この補助金に関して、お金の話になるので、私の経験でかかった医療費の話をちょっとさせていただきたいなというふうに思うんですけども、まず私、直腸がんの手術で腹腔鏡下手術といいまして、お腹に7か所穴を開けて、ロボットでする手術をしたんですね。そのロボットで手術する費用が1回の手術で100万円で、2週間入院したんですけども、その2週間の医療費が大体約200万円。これは私が払った金額ではないですよ。限度額適用認定証を申請しているんで、私が払った金額ではなくて、実際に払った医療費の話で200万円ですね。抗がん剤治療、これが1回の治療で大体約14万円かかります。その1回の抗がん剤、全部で14万円を12回受けますので、大体約200万円近いんですけども、大体1年間でかかった医療費というのが450万円から500万円ぐらい、ざっくりですけどもかかっております。

でも、この医療費は、私はまだステージ3だからこの金額です。これがステージ4であれば、大腸で言えば抗がん剤治療だけで約800万円かかります。抗がん剤治療だけです。それが、じゃ1年で済むのかというと、ステージ4の場合にはまずは転移を、がん細胞を小さくしていったって、手術ができるときになれば手術をするということなので、複数年にわたることがあるので、多分もう膨大な医療費になっていくと思います。

これが、早期発見できて、内視鏡の手術だけで済んだのであれば、大体入院期間は僅か2泊3日、かかる費用は16万5,000円程度です。この金額からいっても、いかに早期発見することが大事かということが分かるというふうに思います。

町長、冒頭で言ったんですけども、若い方はがんの進行が早くて、お年寄りの方はそうでもないみたいな話をしたんですけども、当初、私もそうは思っていたんですけども、これも私の経験談で、私の母が去年の検診に引っかかりまして、今年受診をしたんですけども、その際に大腸の検査だったんですけども、受けた結果が大腸がんで、私と同じステージ3。私の母は、私と違ってかなり健康面を気にしている、もうストイックに食事療法であるとか運動であるとかというのをしていた方なので、そういう方であっても84歳の母が1年間でステージ3までいきました。

私なんですけれども、私の場合はおとしに大腸がんがまず見つかって、そのときにはステージゼロで、内視鏡の検査だけで済んだんですけれども、そのときに直腸に1ミリ大の腫瘍があったんですけれども、それはじゃ経過観察ということで、1年後に大腸がんの検査をするということで予約をしました。それが昨年5月だったんですけれども、昨年の5月に大腸がんの検査を受ける予定だったんですけれども、コロナの関係によって半年間、ちょっとずらしてもらえないかというふうに病院側から言われまして、半年ずらしました。半年後に受けた結果が、直腸がんでステージ3までいったんですけれども、何と1ミリ大だったがんが25ミリにまで大きくなっていました。

がんというのは、時間との勝負なんです。1年間、再検査をして放っておくというリスクがいかに高いかということ、保健師さんにも本当に説明ほしいというところがそこにあるんですけれども、受けなくてがんが見つかったということであれば、なぜ受けなかったんだろうという後悔しか残らないんですね。私も、自覚症状というのは一切なかったです。自覚症状がない状態で、がん検診で引っかかるからこそ早期発見ができる。これは、自覚症状があってから診療したのであれば、ほぼステージ3以上はもう確定と言っていいぐらいなもののがんです。

ですので、再検診の受診というのは、かなり大切なことなので、本当に先ほども言いましたけれども、家族に接するように、必ず受けてくださいというふうに言ってほしいというふうに思います。

事前に福祉課からいただいたデータの中で、令和2年度で83名の方が再検診を受けていません。私は、この83名の方がかなり心配にはなります。できれば、追隨の調査をしていただいて、再検診を受けたかということの確認をしていただきたいなというふうに思います。

受診率を上げるために、60歳以下の方に補助金を出している。私、この政策に関していけば一定の効果があったということで、かなり評価しております。先ほども町長も言ったんですけれども、61歳以上のがんの再検診を受けた方が、令和元年度に76.9%あったものが令和2年度だと66.9%、10%も落ちているんですね。確かに、コロナの影響もあるということとは分かるんですけれども、60歳以下の方が令和2年度は71%あるのに対して、61歳以上が66.9%、これはちょっと低過ぎるんですよ。

この61歳以上の方々に対して補助金を出す意味というのは、この補助金は再検診を受ける際の背中を押す作業には絶対なると思うんですね。説得する材料においても、補助を出すから検診を受けてくれと、かなり強い形でもいけるというふうに思うんです。ですので、61歳

以上の高齢者に対しての補助金というものは、これはかなり必要不可欠になっていくのではないのかなと。

受けない方での、先ほども医療費の話をしたんですけれども、受けなくてがんが進行していたときの医療費を考えると、ここの補助金なんていうものは、言い方が悪いので恐縮なんですけれども微々たるものだなというふうに思います。あくまでも検診率を上げるための補助ですので、何とかこの補助金のほうは認めていただきたいなというふうに考えるんですけれども、町長、いかがでしょうか。

議 長（川村重光君）

町長。

町 長（吉田 豊君）

まず、ただいまのオストメイトの件に関しましては、かつて20年ほど前ですとハンディキャップを持った方の対応をするトイレを含めていろいろあって、それがどんどん進化しまして、現在は多目的トイレというのがあるのが当たり前というふうになってまいりました。

それは、今お話のようなハンディキャップをお持ちの方々に対するオストメイトトイレという部分においては、当然今の新しい施設がそういうふう設置するようになってきたというのは、社会が理解しての結果だというふうに思っております。

先ほどお答えさせていただいたように、私どもとしても新しいもの、そして現在の状況からいくと、今、設置するとベターであるという場所、それには明年度、役所ですのでそういうふうになるかとは思いますが設置してまいりますので、ご理解をいただきたいなというふうに思います。

それから、健診の問題なんですけど、かつてというより現在もそうなんですけれども、青森県は短命県であると。そして、中路先生といろいろお話をしたことがあります。塩だ、お酒だ、たばこだ、どちらかというテレビでもそういうふう流していました。もちろん、それはそれで彼らにとって悪影響があるであろうと言えどおとりだろうというふうに思います。ただ、私が露骨にしゃべったのは、青森県は自分の健康管理に関わる意識が低い。それが短命の最大の理由だと。そして、特に働き盛りの人たちがあまりにも健康に対してないがしろにしている傾向が見られる。

よって、六戸町は60歳から下の働き盛り、働くであろう方々、その方々に先ほどお話があ

りましたように、ドックでまず健診を受けること、そして再検診のことがあったら必ずそれを受けに行くことと、その後ろを押すための助成であります、これは実際は。治療するとかしないとか、そういうことではありません。関心度を高めてもらうためのもので、そういうふうにいたしました。

今だと、他の自治体でもどちらかでもやっていたらしゃるかもしれませんが、当時は県内にはそういうのはありませんでした。六戸としては、あまりにも健診を受けて再検というんですか、それが来ているにもかかわらず、実際に病院に行かないという人が非常に多い、それが青森県の現実。私どもも、ちょっとデータを見るだけなんですけど、六戸も同じだなと。

それから、今いろいろご意見を賜りましたけれども、保健師含め一生懸命であります。今ほど個人情報云々と言わなくても、民生委員の方やいろんな方、保健協力員ですとか、そういう人を通して連絡したりなんかしています。しかし、なかなか動かない。強制的に手を引っ張っていくわけにはいかない。もう少しみんなでおのれの健康ですので、それに対する関心度を高めなくちゃいけない。ただいまコロナという特殊な社会になったものですから、今お話ししたように受診率ですとか再検の人数は減ってはいます。ただ、以前よりはおのれの健康のために管理するような人が徐々に増えてきたことは確かです。

今、このようにご病気され、いろんなものがあって、がんとか、青森県はがんがおおいですからね、大腸がんを含めて、行ってほしい、こちらとしては周りにいる者としてどうしても行って調べてほしい、それでポリープを切除して、何でもなかったらそれにこしたことはないの、行ってほしいんですが行かない人たちもかなりいるというのが現実なんですよ。相当、保健師含め分かっている人、周りにみんなにばらばらと名前を挙げていうことはあり得ませんけれども、一生懸命、とにかく行って調べてください、調べてくださいということは進めています。

先ほどの助成というのは、何の金額でもありません。要は、行くに当たって、中には以前に私の経験上、ある年配の方でしたけれども、タクシー代もかかるしさというので、まず家から出てのことをしゃべったものですから、まず行くきっかけづくりをとというのがあの助成金でございまして、何とかいい話も向けながら行ってもらおうと。本来は自分の健康ですので、自ら出てきた結果をチェックするという意識をもっと高めていただきたい。

私は、今もって青森県が一番短命県だという最大の理由は、県民の健康に対するレベルが低いからだと思っています。

それから、医療の受入れの難しさ、青森県が正常ではないと私は思っています。医療シス

テム環境が悪いのは青森県だと思っていますので。これは、お医者さんが悪いという意味じゃありません。システムがあまりにも高飛車な状況の敷居が高い医療機関というようなイメージがあります。もうちょっと、まず自分の健康、そして医療側としてはそれをスムーズに受け入れて、または紹介をして、どんどん対応していくというような環境に変えていかなければならないのではないかということ、先ほど言いました中路先生や保健学研究科の方々とよく話をします。私は、医療環境と言います。本当に、青森県は低いです。私は素人ですけども、私に言わせると、これでいいと思っているレベルは全国の平均のちょっと下とかから見て半分以下じゃないのかなと。

医者が手を抜いているわけじゃありませんよ。抜いているわけじゃありませんけれども、この流し方、先ほど時間が勝負だというお話をされました。ここである病気が分かって、厳しいことがあって、紹介されてそこの病院に行きました。たくさん患者さんもいらっしやいます。そこに紹介されるまでしばらく時間がかかる、そこに入院してからまたしばらく時間がかかり、何とか手術は終わりました。実は手遅れ状態の手術じゃ意味ないんですよ。もうちょっと、いろんな応用する環境がないのかというふうに思っております。

ただ、それにしましても、一番最初これは病院でもなければ何でもありません。自らが自分の健康を管理するという。ですから、検診はやっぱり受けてほしい。人間ドックを受けてほしい。そのことは、本音として頑張っていますので、今までご質問あったように、今、保健師含めみんなは真剣になっています。しかし、本当に行かないで困るという人が大勢います。こっちが困るわけじゃないんですけども、本人が困るでしょうということなんですけれども、調べていただきたい。それで、何でもなかったら、ご存じのとおり、皆さんもいろんな人のお話を聞いて分かると思いますが、再検診を受けて本当に病気が分かった人、それから心配していたけれども大したことがない、何でもなかったとって安心する人がいらっしやいます。

ですから、そのことの分別を持つためにも、皆さんはちゅうちょしないでそういうチェックを受けるということ、もっと意識を高めてもらいたいなど。そのことによって、何らかの形でお手伝いするのであれば、意見が出てくればまた行政側で広くやりますので、背中を押す程度の今は助成ですけども、別の何らかの形があるのか。年配の方ですから、そういうふうになってくると、なぜこういうふうになるかといって、背中を押すためだけのものだったので、そういうふうになっています。

それ以上になりますと、いろんなケースが出てきますので、どういうふうに線引きするか

というものもあるかと、検討するに当たっては。でも、まずはそうやって、行く人、行く意識を高めるということをやっているはずなんです、なぜ行かない。ちょっと言葉で言うたあれですが、どうしてあなたに問題あるかもしれないと言っているのに行かないのと言いたくなる。あんた少しおかしい人なのかと言いたくなるほど、腹立つようなところがあります。こっちが腹立てる必要はないんですけどもね。自分で行ってくださいよ、判断してくださいよと言いたくなる人は結構いらっしやいます。

それがスムーズに流れていけるように、私どもは福祉課含め、関係する課とまた保健師含め努力してまいりたいというふうに思っております。現状、今、ご質問を申し述べられたこと、我々も全く同感で、そのように捉えながらやっておりますので、今、お金を出せば行くとか云々ではないと思いますので、自分の自らの健康に対する意識をもっと高まった六戸町民、または青森県民であればいいなと、それを願いながら今、努力しておりますので、私どももどこかからでもいいアイデアがあれば、それを取り入れながら六戸町は進めてまいりたいなというふうに思っておりますので、ご理解をいただきたいなというふうに思います。

議 長（川村重光君）

盛田嘉彦君。

1 番（盛田嘉彦君）

そうですね、おっしゃるとおりだというふうに思います。

どうしても健康な方だと、特に若い人なんかそうだと思うんですけども、健診に行く時間、健診にかかる費用、これはもう無駄な時間だというふうに考えているんですね。以前にもお話しさせていただいたんですけども、車でさえも車検で2年に1回入れるわけですよ。まして人間です。1年に1回はしっかり健診を受けていただきたいところを根づかせる、気づかせるという作業がとてもやっぱり時間もかかるものだなというふうには思うんですけども、まず言い続けることが大事だというふうに思います。

今、ようやく診療所のほうで、大腸、胃に関して内視鏡の検査を行うことができるようになったんですけども、ぜひ再検診の際に、は診療所で受診できるがんの検査であれば診療所としっかり連携を取って、一日でも早く検査を受けてほしい。どうしても大きい病院だと、町の健診で引っかかりましたといういで大きい病院に行くと、半年以上待たされてしまいます。ただ、これが個人病院とかで診察して受けた際に、ああこれは治療が必要だというふ

うに紹介状で大きい病院に行ったときには、大きい病院では今度すぐ診てもらえる。やっぱり、半年間待つというリスクが、もう本当に先ほどから言っているとおりかなり高いので、幾らでも一日でも早く再検診が必要とされた方は受診をしていただくということも、保健師さんには強く言っていただきたいなど、しっかり診療所と連携を取ってやっていただきたいなというふうに思います。

そして、診療所で再検診を受診された方に関しては、もう補助金を引いた額で請求していただきたいというふうに思っているんです。というのは、どうしても申請する手続が面倒くさいと、もうとにかく皆さんおっしゃるので、インフルエンザのように、受診された方に関していけば、診療所のほうで計算していただいて、差し引いた額でやっていただくということとは可能なのでしょうか。

議 長（川村重光君）

町長。

町 長（吉田 豊君）

そういうふうやっていくということは、一つのいいように感じますが、私はそれはちょっとおかしいと思います。

先ほど言いましたとおり、健康は自分のものです。なぜ、それを他に求めるかというのは、恐らく長寿の県やなんかは、そういうふう求めてはいません。本人が検査をしっかりとやって、チェックしに行く。そうすると、例えばもう昔と全く違うのは、社会保険の方々やなんかは会社で強制的にみんな人間ドックに行かせたりしている時代です。ただ、国民健康保険ですとかそういう方々は、自分の意志で行ったり行かなかったりなんですよね。私どもとしては、とにかくどういうパターンであれ、また適当なのかどうなのか、若い方は行かないというんですが、若い方の行かないというその人間が駄目なんですよね。

私は、よく若い人たちと会うと、あなた農業やっているけれども、ドック受けたのかというと、いや受けていないと。それを年間に取り入れろよと、仲間ですからそういう言い方をしたりします。そうしないと、自分の体が分からない。六戸は国民健康保険も結構多いものですから、忙しいというのは何の理由にもなりません。そのことをもっと社会で、みんなが若い人たちに話をしていって、健康管理という部分を20代から、もちろん何歳からでも同じなんですけど理解してもらおうことに努めるような町、日常会話の中に出てくるような町になっ

ていかに得ないんだろうなど。

だから、今、幾ら出すからとか、何をこうすればどうだとか、あそこでやればどうしたとか、お金を出せばやるくらいだったら、その人はもうおのれでの健康管理のレベルが低いということになります。だったら、高い人のために何かやってあげたほうがいいみたいなことになりかねない。

ですから、みんなでもって、青森県の短命は何かの理由ではなくて、外的理由じゃなくて、意識のところに大きな要素があるのではないのかということ、先ほども申し上げましたが、そのことをもっとみんな健康を考えて暮らしましょうよと、誰のこともない自分のことというふうなことを、これからもっと関係、担当やなんかと一緒に町民のために普及するようにより努めてまいりたいというふうに思います。

議 長（川村重光君）

盛田嘉彦君、時間がもうそろそろですので、まとめていただきたいと思います。

1 番（盛田嘉彦君）

ありがとうございます。すみません。

ということなので、ちょっとまとめさせていただきたいんですけども、私は健康づくり推進協議会の会長ということなので、町民の健康を守る義務があるというふうに私は思っております。

本当に、町長もおっしゃるとおり理解はするんですけども、この補助金に関しては、どうしても健診率を上げていかなければならないということで、命を守るための補助金だというふうに私は思っております。

そして、とにかく健診率を上げるために、ここにおられる皆さんもかなり影響力がある方だというふうに思いますので、皆さんのお力を借りて、最低でも県内でもトップクラスの健診率には上げていきたいというふうに思いますので、町を挙げて健診率を上げていけるような活動ということをお声をかけていただいて、みんなで六戸町民の健康を守っていきましょうということを最後訴えて、質問を終わりたいというふうに思います。

町 長（吉田 豊君）

先ほど、再検のための助成がある、そのほかにかん検診ですとかそういうものには助成を

して、本当に大きく負担がかからないで調べられるようにやっております。

一番の問題は、先ほど言いましたが皆さんが過信して、本当にいいだろうというような状況でいることが一番問題ではないのかなど。全員、強制的に本当は健診をさせるというくらいの社会になればいいんですけれども、そういうことも法的にはできませんので、私はそういうのが可能であるなら、別途にお金をかけても公としてはそういうのをやるべきだろうというぐらいの意識はあります。ただ、あくまで個人の意思というものが高まってこないことにはどうにもならない数値が出てまいりますので、くれぐれも私どもとしてはそれを拡大する、自らの健康管理意識向上ということをもっと進めていかなくちゃいけないなというふうに思っております。

それに附帯して、いろんな支援することとか、いろんなアイデアが出てくる、やれるというふうに思いますので、役所としては一生懸命、おっしゃるとおり町民の命を守るためやっているんだということをご理解いただきたいなというふうに思います。

議 長（川村重光君）

よろしいですね。

これで、1番、盛田嘉彦君の一般質問が終わりました。

以上で、本日の議事日程は全て終了いたしました。

次の本会議を12月7日午前10時より本議事堂において再開いたしますので、本席より告知いたします。

本日はこれにて散会いたします。

ご起立願います。

お疲れさまでした。

散会（午前10時57分）